



男女共同参画
鳥取市男女共同参画
シンボルマーク

鳥取市男女共同参画センター機関紙
(編集: 公募した市民編集委員/発行: 鳥取市男女共同参画センター)

き 輝なんせ鳥取

2012.3
第17号



図書・情報コーナー

土・日も貸し出しをしています。是非ご利用ください。
(関連ページ4ページ)

—目次—

- 編集委員の「輝なんせ鳥取」
講座つれづれ記 2
- 平成23年度開催
啓発講座紹介 3
- 相談・図書コーナー紹介 4
- 訪問取材「おじゃましま〜ず」 5
医療福祉法人 明和会医療福祉センター
- インタビュー 女と男 6
鳥取県警察学校 川口 千晶さん

再就職セミナー

「コミュニケーションの考え方を知る」

講師：日本海テレビアナウンサー 福浜 隆宏さん

鳥取県は働く女性が多い。女性の就業率が高いのは不況による社会的背景が多分にある。だがそれだけではなく、社会的な役割と自己実現の手立てとして働くことは大切な事でもある。福浜さんは、人と接するとき、好感の持てる第一印象を抱いてもらうことは相手や状況に対する気配りに通じると話された。

また、より良い人間関係を築くための“コミュニケーション”について、福浜さん自身の失敗から成功へと繋がったことを例に挙げ、「自分の価値観と他人の価値観は違って当たり前で、その違いを謙虚に受け止め、さらに一歩踏み込む勇気を持つことが、自身の成長に繋がるのでは

ないか。多少の失敗もバネにしてチャレンジして欲しい」と語られた。

熱血教師さながらのひと時、興味深く、時にうなずかされる内容盛りだくさんの講座でした。

伊藤編集委員



男の生活力セミナー（認知症編）

「福祉機関や地域の関わり方と介護保険制度」について

講師：いくのさん家 竹本 匡吾さん

いくつかのデータを紹介された中で、全国的に単独世帯（特に男性）の孤独死は50代から急激に増加するといわれた。そして、鳥取県の現状を話され、高齢化率は全国で比べると10年先まで進んでおり、加えてディサービス利用者も全国2位と多く、どの数字も思っていたものより高かったのに驚かされた。

セミナーの中では主に地域との関わりについて話され、「ディサービスは施設と利用者を結ぶが、利用を始めると地域の人は手を離してしまう傾向がある」と言われた。

お話を聞きながら、人が幸せに年を重ねるといことは、今まで生きてきた身近な地域の人人間関係に支えられて（何かあったら、人を助けたり、助けられたりする）生きていくことではないかと改めて考えさせられ、そして、今の自分

の足元のその先にこの現実が始まっており、自分が周りの人に関心を持ちその人たちを支えていくことが、やがて、自分も支えられていくのだと思いました。講師の竹本さんは熱く楽しく語られ、難しい問題を今の自分の生き方に引き当ててわかりやすく話され有意義な講座を聞かせていただきました。

岸本編集委員



平成23年度開催

啓発講座紹介



—講座内容—

H23. 6月 ●再就職セミナー……3回連続

7月 ●ワーク・ライフ・バランスフォーラム



7月

9月 ●男女共同参画基礎講座……3回

10月

8月 ●女性塾



10月 ●ステップアップセミナー……3回連続

11月 ●デキる！男の料理教室
●DVセミナー……2回連続
●コミュニケーション……4回連続

12月 ●いきいき男性塾……2回
●デキる！男の料理教室……2回

H24. 1月 ●わくわく男性塾……2回連続

3月 ●いきいき女性塾……2回連続





女性のなんでも相談

まずは
お電話
ください

1人で悩まないで話してみませんか?女性を対象にした相談を受け付けています。弁護士による相談日と相談員による相談日があります。いずれも予約制です。状況により他の相談機関をご紹介します場合もあります。

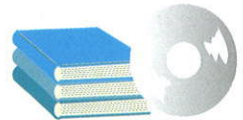


	相談内容	相談員	相談日
法律相談	法律問題に関すること	弁護士	偶数月2回 奇数月3回
一般相談	悩み(人間関係・人権・教育等)	女性相談員	毎月第2土曜日

詳しい相談日時は市報・電話(0857-24-2704)等で確認してください。

(H23.4~H23.12)

図書・ビデオ貸出人気ランキング



順位	書籍名【図書の部】	著者
1	老いは楽しゅうございます。	岸 朝子
2	祖母力	樋口 恵子
3	五十からの上手な生き方	佐藤 綾子
4	DVにさらされる子どもたち <small>加害者としての親が 家族機能に及ぼす影響</small>	ランディ・バンクロフト
5	生きるのが楽しくなる15の習慣	日野原 重明
6	キッパリ!たった5分で自分を変える方法	上大岡 トメ
7	DVと虐待「家族の暴力」に援助者ができること	信田 さよ子
8	あたらしい自分を生きるために	森田 汐生
9	女職人になる	鈴木 裕子
10	弱い自分を好きになる本	香山 リカ

順位	タイトル【ビデオ・DVDの部】	制作
1	ジェンダー・フリーな社会をめざして 第1巻	又エック国際女性会館
2	ワーク・ライフ・バランスを知っていますか?	内閣府 男女共同参画局
3	「家族で子育て みんなで子育て」	鳥取市いなびりょんぴょんネット

訪問取材 “おじゃましてす”

今回は、第4回ワーク・ライフ・バランス大賞優秀賞を受賞された
“社会医療法人明和会医療福祉センター”を訪問しました。
法人本部 竹中さん 瀧川さんにお話を伺いました。



Q ワーク・ライフ・バランス大賞優秀賞を受賞されていますが、受賞理由となった取り組みを教えてください。

A 医療機関にワーク・ライフ・バランス制度を導入・定着させることは、一般の企業と比較して難しいとされています。当法人では、短時間正職員・夜勤回数の限定から全く勤務制限のないスタッフまで、7段階の勤務ステップを組み合わせることで、何とかワーク・ライフ・バランス制度を定着させることまでたどり着くことができました。具体的な制度面では、ワーク・ライフ・バランス制度を利用する人はもちろんですが、制度利用をしない人の働きやすさが大切という認識で制度構築に取り組みました。今回の賞をいただくことができたのは、一人一人が制度の理解に努め、精力的に取り組んだことへの頑張りが評価されたので



瀧川さん

はないかと思っています。また、2010年に次世代育成支援対策推進法に基づく(くるみん)の認定を受け、特に男性の育児休業取得促進には積極的に取り組んでいます。これまで男性の育児休業取得者2名・介護休業取得者は7名、今年度は育児休業取得予定者2名ですが、今後も男性の育児休業促進には積極的に取り組んでいきたいと考えています。

Q いろいろな勤務形態があると職員数も必要となり、そのため人件費も多くなるのではないですか。また、お話を伺っていると「人にやさしい」という言葉が良く出てきますが、その点も教えてください。

A ワーク・ライフ・バランス制度を定着させるためには、若干ゆとりをもたせた職員配置とせざるを得ないように思います。それでも医療専門職が少しでもゆとりをもって過ごせるようになれば、来院される患者様やご家族の皆様とのコミュニケーションの機会も増え、サービス機

能を高めていく努力を進めやすくなるように思います。経営トップである渡辺憲理事長・日笠親績病院長も、地域の皆さまに認めていただけるようなサービスを提供し続けられれば、給与を始めとする人件費を上回る位の価値は充分にあるということを話しています。

私たちの法人では、以前から「人にやさしく」という運営理念を掲げています。「患者様やご家族の皆さま、あるいは職員同士においても、常にやさしく接することのできる職員が自信をもって仕事を頑張るような職場」を実現することが大きな目標です。



竹中さん

Q 地域との関係という点で、意識していることはありますか？

A 心の医療(渡辺病院)や回復期・慢性期の医療(ウエルフェア北園渡辺病院)は、急性期病院と比べると外来患者数も少なく、地域の皆さまにとってイメージがしづらい医療分野なのではないかと思っています。そこで、当法人では「地域に開かれた」という理念のもと、夏の納涼祭や冬のクリスマス文化祭など、患者様やご家族の皆さまと一緒に、地域の皆さまにも、ボランティア等で参加していただくような取り組みを長く継続してきました。「地域に必要とされる医療機関として認めていただくこと」が、どんな時も、職員全体の目標となります。

感想

お話を伺い、“人”に対する満足度をあげるための取り組みを病院全体で考えられていること、また、地域に社会貢献することへの意気込みも感じ、数年後に再度お話を伺いたいと思いつつ取材を終えました。

谷本編集委員

※ワーク・ライフ・バランスとは…ワーク(仕事)・ライフ(生活)・バランス(調和)

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」

内閣府 仕事と生活の調和推進室より抜粋

インタビュー ひとひと 女と男



川口さん

鳥取県警察学校 教官をされている **川口 千晶さん** にお話を伺いました。

鳥取県では平成5年から女性の警察官が採用され、現在警察官約1,200人中、女性警察官は約70人勤務しておられ、川口さんは8年前に採用されました。

警察官になられた理由をお聞きしたところ、警察官とは別の道を歩んでいた折、「もっと人の役に立ちたい」「自分も警察官になって警察でしかできない仕事をやりたい」と思われ、転職して警察官を目指されたそうです。警察官となって心掛けておられることをお聞きすると、「女性警察官として活躍する場面に遭遇したときには、女性ならではの目線で話しやすい環境づくりに心がけたり、あってはいけませんが、例えば性犯罪、誘拐事件等が発生した場合、関係者の心の変化などに寄り添いながらソフトなイメージで話を聞いてあげたい。男性警察官には話しづらいことでも女性警察官なら話せるという方もおられます」と伺い、女性ならではのやさしさを感じました。

また、「武道や逮捕術なども習得していますが、けんかの仲裁の場面などでは、やはり体力的に男性との差を感じます」と話され、女性が警察官という仕事をする上での難しさも感じました。

一年前から男性教官の多い警察学校で女性教官をしておられますが、教官になられてからの様子を伺うと、「いろいろな入校学生が

います。特に入校したばかりのころは厳しい規律や訓練についていけず、悩んだりする学生もいますが、話を聞いたり、励ましたりして卒業を迎えます。現在の私の役目は、入校学生を人間的にも立派な一人前の警察官に育てることで、目標でもあります。卒業時となると、入校学生たちは保護者の方が本当に驚かれるほど変わり、立派になります。警察官としての自覚ができるからです」と笑顔で言われました。毎回卒業式の日には、お姉さんのような気持ちで送り出されるのかなと思いながらこちらまで笑顔で聞かせていただきました。

川口さんは、これまで、様々な人との関わりの中で出会いの大切さを感じておられ、警察官になって、その思いを一層強くされたようです。特に教官になられてからは、「周りの方の励ましやフォローがあり、いろいろな方との出会いの中で成長させてもらっています」としみじみおっしゃいました。「今後も警察で仕事をできる事が一番」と眼を輝かせて話される川口さんの更なる飛躍を期待しつつ取材を終えました。



感想

私にとって警察官というのは立派な職業で、遠い存在でしたが、このたびのインタビューを終えて、意外に身近な存在であると感じました。

出村編集委員

●輝なんせ鳥取●
鳥取市男女共同参画センター

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町2丁目311

TEL(0857)24-2704

FAX(0857)20-3054

E-mail danjyo@city.tottori.lg.jp

U R L <http://www.city.tottori.lg.jp>